

本年の釈尊ご降誕祭に、信者さんを代表し、大勢の方に遠路はるばる千葉聖地にご参拝を頂きました。お陰さまで雨が止みまして、久遠佛塔の御前で式典を執り行うことができました。これもひとえに、皆さまの念願のおかげさまです。感謝申し上げます。

今まで釈尊ご降誕祭は、少年部員を中心に式典を行っていましたが、本年は男女青年部員が、脇導師を務めて頂きました。私はその青年部員の姿、そして各部の代表の皆さんがご奉仕をしている姿を見て、素晴らしいな。このご奉仕の姿こそ、私ども妙智會の進むべき大きな方向性の一つだなど、痛感しました。

祈願文にあったように、会主さまは私たちに「お釈迦さまは太陽です」と、ご教示をくださいました。今日はくもり空で太陽が見えませんが、この雲の上には、尊い太陽が輝いております。

皆さんは、イソップ物語の「北風と太陽」というお話をご存知かと思います。通りがかりの旅人が着ていた厚いコートを、北風と太陽が、どちらが先に脱がすことが出来るか競争しようというお話です。まず北風が旅人に冷たい風を吹くと、旅人はコートを脱ぐどころか、もっとコートを握りしめ、一度も脱ぐことはありませんでした。そして太陽が温かい風を吹くと、旅人はすぐさまコートを脱いだ、というお話です。

大変簡単な争いごとの話に聞こえますが、私は小さいころから、この物語には深い意味があると感じていました。この太陽、お釈迦様は慈悲深き存在で、どんな時でも私たちを照らし、温かい心で私たちの頑なな心を解きほぐしてくださるのです。

私がお話の後に続けたいのは、私たち自身がお釈迦さまの

ような、太陽のような存在にならなければならないということです。妙智會に入会し、皆さんは「旅人」から「太陽」になったということを、ぜひしっかりと受け止めてください。皆さんはもう、お釈迦さまのように温かい心を持っていて、その温かい心を他者に与える役があります。

今日から、自分は旅人だという気持ちを捨てて、自分自身が太陽になってください。私はお釈迦さまのようにはなれないと、そう思っただけではいけません。会主さまは私たちに「妙智のみ教えを行えば、お釈迦さまのようになれるのです」とおっしゃいました。妙智のみ教え、会主さまのみ教えを行えば、今すぐ皆さんは、太陽になれるのです。

そのために、私たちは何をすべきか。それは「先祖供養」と「お導き」。それを大導師さまがおっしゃった「笑顔」と「優しい言葉」で実行することです。私たちは知らずのうちに、北風になってしまいます。妙智會の会員は、北風になってはいけません。笑顔と優しい言葉で、他者に接してください。

「他者」というのは身内も含め、自分以外は全て他者です。血が繋がっていても、家族も他者。ご先祖さま、流産児も他者です。そう思いながら、太陽のような心で先祖供養をしてください。自分がしてやっているんだという先祖供養は、北風です。温かい心、太陽の心で他者に接してください。

ぜひ本日の指導を笑顔で、優しい言葉でお伝えしてください。私たちは会主さま大導師さまから「優しい言葉、優しい笑顔よ」と頂いてきました。そのことをぜひもう一度再確認して頂き、今日からまた先祖供養、お導きの実行をお願いいたします。